

令和二年度

青少年育成春日部市民会議

「少年の主張」作文集



青少年育成春日部市民会議

はじめに

「少年の主張」作文コンクールは、青少年が日頃考えていること、また、体験したことや感じたことを作文という形で表現することによって、青少年自らが、広い視野に立って物事を考える力を養うとともに、自分自身を見つめ直す機会としています。

あわせて、青少年の考えを多くの人々に訴えることにより、同世代の青少年の意識啓発と、青少年の健全育成に対する大人の理解を深める契機としています。

市内小・中・義務教育学校に通う児童、生徒を対象に募集を行い、小学生の部から七百六十五編、中学生の部から四百五編の応募がありました。今年度においては、これまでとは異なる生活の中で、『コロナ禍における人々のつながり』『将来の夢や希望』『差別やいじめ』『環境問題』など、様々なテーマで深く考察された作品が集まりました。

応募作品の中から入選作品十四編が選ばれ、その中から、最優秀賞一編、優秀賞五編が決定しました。この作品集は、最優秀賞、優秀賞の計六編をまとめたものです。青少年が心に抱く様々な主張を、多くの方にこそ読んでいただければ幸いです。

目次

○ 少年の主張作文〈最優秀賞〉

「清く。正しく。美しく。」

春日部市立武里中学校 三年

波多野 碧

1

○ 少年の主張作文〈優秀賞〉

今、私達にできること

春日部市立備後小学校 六年

加川 結海

5

私にできること

春日部市立立野小学校 六年

塚田 萌百花

8

未来とSDGs

春日部市立牛島小学校 六年

井澤 琉斗

11

おかげ様に目を向けて

春日部市立豊野中学校 二年

天童 理翔

14

ありがとうの魔法

春日部市立葛飾中学校 二年

久保田 咲彩

17

○ 青少年育成春日部市民会議のあゆみ

19

少年の主張作文〈最優秀賞〉

「清く。正しく。美しく。」

春日部市立武里中学校 三年 波多野 碧

今まで、何人の大人と関わっただろう…。

生きていく上で私達は人と関わっていかなくてはならない。それが間接的だとしても。自分の日常の中で誰かの日常に触れながら生活している。今、何不自由のない生活を送ることができているのは、着る物や食料、満足して暮らせる環境や教育など他にもたくさん物の物を提供してくれる大人達がいるからだ。今まで関わった全ての人が私の人生の大切な登場人物なのだ。

そんな大人になれるのは、いつだろうか。お酒が飲めるようになったらだろうか。働き始めたらだろうか。誰しも時が流れ気付いたら大人と呼ばれる人になる。そこに明確な基準は無いが「成人」になるという一つの目安がある。

今までは、満二十歳以上として定められていたが民法が改正され二〇二二年から満十八歳に引き下げられることが決定している。私は今年で十五歳。あと三年で成人となる。

そこで、青少年である私達子供と大人の違いについて改めて考えてみた。見た目の違いや物理的な力の差。私達に比べて色々な経験をしているため知識も豊富で考え方も異なる。なにより大人は、自立していて私達が一人でできないようなことが何でもできる。遠い憧れの存在である。

その一人である私の習い事の先生は、特に尊敬している大人である。私は新体操を習い始めて今年で十年目だ。そんな幼い頃から指導してくださっていた先生は、優しく、楽しく、時には厳しく、丁寧にできるまで何度も教えてくれるとても良い先生だ。何百人もいる生徒の名前とその兄弟の名前も覚え、誰にでも明るく対応している先生を見て、私も将来新体操の先生になりたいと思っている。そして、先生は新たにチームを作り、今でも夢を追い続けている。私の人生に刺激を与えてくれた一人である。

しかし、残念なことに私が先生を目標にするように、こうなりたいと思う大人が明確になっていく子供達はほんの一握りだと思う。それは見本となるはずの大人が一握りだからではないか。

中学校で義務教育が終わり、自分で未来を考え、選択していかなければならない。部活や人間関係によって社会の大変さに気付く人も多いだろう。現実に正面から向き合おうとしてもうまくいかないこともあるはずだ。

そんな時の支えになるのが、困難を乗り越えてきた大人の姿だ。理想となる姿は道標となり、不安な気持ちを勇気へと変えることができる。

だが、私達が顔を上げた先にいる大人達がみんな私達の憧れる道標となる大人だとは限らない。子供の頃にできていた事ができなくなってしまう大人もいる。

そんな「自立」した「自律」のできない大人は少なくない。これは私が小学生の時に先生に教えてもらった二つの言葉だ。どちらも「じりつ」と読み、自分の行動を表す言葉だ。「自立」とは「人に頼らず自分の力で行動すること」、「自律」とは「自分で作ったきまりに従って行動すること」で

ある。先生はこの意味を教えてくださいました後、こうおっしゃった。「どんなに自立して行動しても、自律ができなくては間違った道に進んでしまう。他人の力を借りないのだから、自分で自分を正しい道に戻さなくてはならない。」と。たった数分の話だったが、この言葉にこめられたまっすぐな熱い思いに今でも胸が熱くなる。

けれど、なぜ大人は「自律」できなくなってしまうのだろう。日頃のストレスや疲れが原因なのかもしれないが、その大きな理由は誰も指摘してくれる人がいないからではないだろうか。

SNSでは、その実態がよく分かる。今では中学生も多くの人が利用しているため、SNSを通じて大人の事を知ることでもできる。

私は今まで実際に会ったことのある友達としか交流が無かったため、よく耳にするSNSのトラブルはほとんど無かった。しかし、いざ世界中の人と関わられるSNSを見てみると、罵詈雑言が絶えず本当に驚いた。そして、そのほとんどが大人だった。

そんな姿を見ている私達子供は指摘することも難しくどうすることもできない。小さい頃から教わってきた「人を傷付けない」ということ。自分で自分の行動をよく考えるということ。簡単だけれど難しいこの行動一つで未来は変わるかもしれない。私達は機械じゃない。教えこまれた知識でも動作でも言葉でもない。感情がある。意志がある。それで手を差し伸べることも、誰かの背中を押すことも、時間や気持ちを共有することもできる。そんな人間である私達にしかできないことを当たり前のようにできる人が増えれば、もっと平和な世界を実現することにも繋がっていくと思う。「きつと私達の中にも「自律」のできない大人になる人はいるはずだ。そんな人をゼロにすること

は不可能なのかもしれない。しかし、そんな人にのる必要も、その人を指摘する必要もない。大勢で反論してしまつては負の連鎖が起こつてしまう。自分が思う正しい道を胸を張つて歩いていけば自然と誰かがついてくるだろう。次は私達が誰かを支える番だ。

私は、これまでたくさんの大人と出会い、多くのことを学んだ。その中で私はこうなりたいという目標を持つことができた。それは母だ。そんな母のよく言う、

「清く。正しく。美しく。」

という言葉は今では私の日常に欠かせないものとなった。初めは一人でも正しい道を、胸を張つて歩いていけるようにしたい。不安もあるが、この主張を通して一歩踏み出す勇氣を持てた。

たくさんの大人との出会いから得ることのできた目標を、そして未来へ進み出す勇氣をくれた感謝の気持ちを青少年として主張する。

少年の主張作文〈優秀賞〉

今、私達にできること

春日部市立備後小学校 六年 加川 結海

「明日から休校になります。」

五年生の三学期、新型コロナウイルスにより、緊急事態宣言で学校が急に春休みまでお休みになることになりました。

「えっ。春休みが多くなってラッキー。休みになったら何をしよう。」

私は家族の前で本音が出てしまいました。

「何を考えているの。コロナでたくさんの人達が亡くなったりしているんだよ。」

と姉に言われました。私は、毎日コロナのニュースをテレビで見ているとともうんざりしていました。コロナなんかすぐに消えて、明るい日常がすぐ戻るものだと思っていたからです。しかも、私は体がとても丈夫で、普段学校を休んだことがあります。だからいまいち休校と言われてもピンときていませんでした。でも、小学校の卒業式もどうなるか分からないことを知った時には、姉はすごく落ち込み、泣いていました。姉は卒業生だからです。泣いている姉に母は、

「つらいよね、くやしいよね。コロナだから誰も悪くないんだよね。誰のせいにしてもだめなんだよね。」

とぎゅつと抱きしめ、母もちよつと涙ぐんで、

「じゃあ、みんなが楽しい気持ちになれる様、何が出来るか考えてみよう。」

と言い出しました。母は、卒業対策委員会の委員長でした。「卒業式につける胸花を購入せず、一人一人手作りしてみようかな。イニシャル入りのロゼッタで卒業式にも使えてその後、バックなどに付けられたらいいね。かわいいし、世界に一つの宝物になるかな。」という話をしてくれました。

私達は大賛成でした。そこで、私達で今できることを考えてみました。コロナでマスク不足だとニュースになっていたので、先生達に手作りのマスクをプレゼントしようと考えました。大切な命を守るために、コロナに感染しないようにと願ったからです。みんなで先生達のイメージに合う生地を、あれだ、これだ、と考えながら選びました。次に、試作品を三点作って実際に自分達で付けてみました。意見を交換してみると、立体マスクが良いと意見が一致しました。裁断してミシンでぬう人、余っている糸を切り、ぬった生地をひっくり返す人、アイロンをかけてゴムを通す人、袋づめにする人に分かれて、三姉妹で交代しながら作りました。難しかったのは、ミシンです。ガーゼの生地はやわらかく、ミシンが思うようにそうさできなくて、くじけそうになったけれど、「先生が喜ぶかな、仕上げまで上手に作れるといいな。」と考えながら、あきらめずに最後まで作り上げました。

「少し曲がってしまっても、大丈夫だよ。気持ちの問題だから、一生懸命作ったことが大切だよ。」

と言ってくれたので、元氣をもらいました。三姉妹で心をこめたマスクは、登校日に渡すと、とて

も喜んでくれました。

今まで命について深く考えたことは、ありませんでした。目に見えないウイルスと戦うことは、とても大変です。友達や先生と実際に会って話すと心がほっこりします。ふれ合う大切さも知りました。家も大好きで、家族もすごく好きだけど、家族以外の人達との関わりが、こんなにも大切だなんて、人は一人で生きていけないんだなと思いました。人は、目標に向かってがんばることが、生きている意味があると改めて感じました。私は六年生の目標を立てていました。その一つが陸上大会の選手になって活やくすることだったのですが中止となり、とてもへこみました。だから今は、コロナに負けないように新たに目標を立て感染しない様に生活しています。また、外出自粛や医療従事者に感謝の気持ちをもつなどできることを積極的にやろうと思いました。

今私達ができることを一人一人が考え、みんなで協力できる明るい未来を願っています。

私にできること

春日部市立立野小学校 六年 塚田 萌百花

五年生も残りわずかの三月の初めに、とつ然学校が休校になりました。新型コロナウイルスが世界で大流行して、日本でもたくさんの方が感染者が出てしまったからです。このウイルスは感染力が強く、人と人との濃厚接触をさげなければいけません。本当に怖い病気です。

緊急事態宣言が出てからは、友達とも会えなくなり、外出も必要な時だけしかできなくなりました。とてもつらかったです。でも、その時に私が一番心配だったのは、毎週会いに行っている祖母のことでした。高れい者は、感染すると重しよう化することが多いそうです。祖母は糖尿病や高血圧などの持病があるため、祖母の安全を考えて、今までのように会いに行くことができなくなっていました。

ある日、車の運転ができない祖母のために、飲み物など重い荷物を届けることになりました。家の中に入ることはできなかつたのですが、久しぶりに祖母の顔を見ることができて、本当にうれしかったです。車で家に帰ると中、私は気になっていたことを母に話しました。祖母のことを呼んだ時に反応が遅かったり、ぼんやりしている時間が長かつたからです。母も同じことが気になっていたようで、私は急に祖父のことが心配になってきました。

祖父は私が生まれる前に大きな病気をしたことがありましたが、囲碁の名人で毎日碁会所に元気

に通っていました。

しかし、新型コロナウイルス感染対策のため祖父の生活は一変してしまいました。人と接触することをさけるために、誰とも交流がなくなってしまったのです。自分の部屋で一人で過ごしていることが多いと言っていました。感染予防のために人とつながる機会が無くなり、生きがい無くして大きなストレスを抱えている高れい者が増えているという新聞記事を見つけて、

「じんたんは、大丈夫かな。」

私の不安は、どんどんふくらんでいきました。祖父母は、携帯電話は持っているけれど、使えるのは音声での通話だけです。そこで、私は考えました。

「私にできることって何だろう。私ができることで、少しでも祖父母を元気にしてあげられることはないかな。」

まず一つ目は、電話で話をする時間を作ることです。

「今日のお昼ご飯は、何を食べたの。」

など、特別な会話ではないけれど、今の祖父母には、声を出して人と話をするのが大切だと思うからです。

二つ目は、簡単な計算問題や漢字、面白いクイズや頭を使うなどぞ問題テスト形式で作り、FAXで送ることです。さし絵をかくなど楽しく頭の体操ができるように工夫しました。接感染を防げて、相手の都合を気にしないで送受信できるところがよいと思いました。祖父母は解答を書いて送り返してくれるなど、とても喜んでいました。

三つ目は、朝のラジオ体操を一緒の時間にすることです。場所は離れていても、同じ時間に約束して行うことで、心が通じ合っているように感じ、楽しく続けられました。

この三つを続けることは、祖父母のためだけでなく、私の元気にもつながりました。

今回の経験から私が気付いたことは、自しゆく生活の中、祖父母のように人との交流が無くなってしまう高い者を元気づけることが、私にもできるということです。電話やFAXを使った接触しないで交流できる方法で、元気を無くしてしまっている高い者を助けたいです。コロナウイルスの影響で生活が変わっていく今、私にできる、そんな小さなボランティア活動をしたいと強く心に思いました。

みなさんは、SDGsの目標が達成されると、未来はどのように変わると思えますか。私は、地球温暖化などの環境破壊が進み、現在のあらゆる当たり前のことが失われた世界を想像すると、とても怖いです。実際、私たちはコロナウイルスの影響によって、当たり前に過ごしてきた小学校生活の一部を失いました。いつ起きるか分からない不測の事態に備えていくためにも、SDGsの目標達成に向けて、一人一人ができることに取り組むことが重要だと考えます。

私は、五年生の時にSDGsという言葉を知り、社会科や総合的な学習の時間に勉強をしました。これは、国連で定められた持続可能な開発目標であり、二〇三〇年までに達成すべき十七の目標で、大半が環境問題を無くす目標が示されています。

では、もしもこの目標が達成できなかったら未来はどうなるのでしょうか。環境破壊が深刻化し、地球温暖化が進むことによって、ツバルという島国が沈んでしまうかもしれないという話は、社会科の授業で学習しました。そうになると、日本も島国のため、いつか沈んでしまう日がやってくるかもしれませんし、どんなに科学技術が進歩しても、環境が壊れてしまっただけでは、生活できません。私たちの社会生活の土台には、環境があるのです。

一方、SDGsの目標を達成できたらどんな未来になるのでしょうか。格差が減り、みんな平等に生活することができ、環境問題も減って、とても豊かな生活を世界中の人達が送れるのではない

かと思いません。このように私はSDGsの目標を達成することで、より良い未来を創ることができると考えました。

では、どうすればSDGsの目標を達成することができるのでしょうか。私は、二つ方法があると考えます。一つ目は、できることに一人一人が取り組むことです。例えば、ゴミ拾いやリサイクル・好き嫌いをせずにご飯を食べる・物を大切に使う・エコバックを持ち歩く…など、私たちができることはこれまでも行ってきたようなことが多いですが、改めてしっかりと取り組んでいくことが必要不可欠です。今年の七月一日からは、レジ袋が有料化になります。これも環境問題の解決への第一歩です。こうした社会全体の取り組みに、私たちが積極的に関わることが大切です。「自分くらいいいや。」ではなく、「未来は一人一人が創るのだ」という気持ちをもつようにしたいです。

二つ目の方法は、世界中の人達が協力することです。そのためにも、まずはSDGsとは何かを知る必要があります。実際、よく知っている人は、世界平均約26%、日本人は8%しかいないようです。昨年、学級で学校や地域の人達に広めるための取り組みを考えました。今年も継続して、多くの人にSDGsを知ってもらえるように活動をしたと思っています。ほんの少しだけでもSDGsに関心をいだいて、ゴミ拾いやリサイクルなどに取り組む人が増えるだけで、世界は変わり、理解する人が増えれば、活動の幅が広がっていきます。私たちの活動は環境を良くするための小さな一歩かもしれませんが、世界中の人達で協力することで大きく前進していきます。そうすることが、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」を実現することになり、地球に住む全員で、より良い社会を創ることにつながるのだと思います。

私たちにできることは限られています。しかし、一人一人が意識し、考えて行動することが、未来を変えます。SDGsは、世界中の人達の気持ちをまとめる上でとても有効なものであり、目標達成に向けて努力していくべきものです。私たちが二十二才になる未来が、環境問題が解決し、全ての人が平等に生活できる世界になることを願ひ、私ができることを考え、精一杯取り組んでいきたいです。

おかげ様に目を向けて

春日部市立豊野中学校 二年 天童 理翔

今、僕たちは学校が休校中です。こんなに長い間学校に行けなくて、友達とも全く会えない日が続いたのは初めてです。

学校へ行って授業を受け、クラスのみんなとゲームの話で盛り上がり、部活をして帰宅する。これが僕の普段の一日です。時には、

「今日の体育はマラソンだから学校に行くの嫌だなあ。」

と、ため息をついて母に笑われることもあります。そんな当たり前の生活から一気に全てできなくなってしまい、早くいつもの生活に戻ってほしいなという、今まで感じたことがないような複雑な気持ちで一杯になりました。

みなさんは、今まで学校に行くことや友達と遊べることを幸せだと感じたことはありませんか。少なくとも僕はありませんでした。今までの生活があることに慣れすぎて、できて当然、あつて当然と無意識に思っていたのが本音です。

以前、インターネットで、世界には学校に行けない六歳から十四歳の子供が約一億二千四百万人もいるという記事を読んだことがあります。日本の人口と同じくらいの人数がいることにとっても驚いたことを覚えています。この多くは発展途上国の子供たちで、行きたくても学校が無かったり、貧困のために働かなくてはいけなかったりするそうです。学校もあつて、勉強するのが僕にとって

は当たり前前でも、世界には鉛筆やノートさえ手に入らない子供もいるなんて信じられませんでした。自分の当たり前前が、誰かにとつては当たり前ではないのだと思いました。きつと自分目線で見れないものなのかもしれません。そして、その当たり前前がとても幸せなことなのだ、実感しています。

「毎日ご飯を作らなきゃいけなくなると、給食のありがたさがほんと分かるわ。」

休校中のある日、母がぼそつと言ったのを聞いて、はつとしました。ご飯は食べられて当たり前だと思っていたけれど、それは作ってくれる人がいるのおかげなのだと思います。楽しく学校に行ける環境を作ってくれる親や周りの人たち、勉強を教えてください先生、栄養バランスを考えて給食を作ってくれる人。僕の周りには、陰で支えてくれる人がこんなにいるのに、意識したこともなかった自分が恥ずかしくなりました。

「おかげ様でありがとうございます。」

お礼を伝えるとき、このような挨拶をしたいと思います。今、この本当の意味が初めて分かったような気がしました。「当たり前」の日常は、目の前にいなくても、たくさんの「おかげ様」がいつもいてくれるから実現できたのだと感謝の気持ちで一杯になりました。人は、慣れてしまうと、それがどんなに大切でありがたかったことなのか見えなくなってしまうのかもしれない。今まで僕は、目で見えることにしか感謝を感じたことがありませんでした。でも、当たり前前の陰にいる、たくさんの「おかげ様」に心の目を向けてみようと思いました。

みなさんと思う、当たり前前とは何ですか。体が健康なこと、家族がいること。当たり前前は人によっていろいろあると思います。でもどの当たり前前にも「おかげ様」がいることを忘れないだけで、

今までの毎日と違うものになると思いました。それは、言葉にすることです。学校で、ごみをいつの間にか友達が捨ててくれていたり、ノートの返却も誰かがしてくれていたり、僕は今まで感謝どころか気にもしていませんでした。日常のささいな当たり前でも、「おかげ様」はいます。誰かがやって当たり前と思っていたことにも、ありがとうの気持ちを言葉で伝えることで、きつと今までとは違う彩のある当たり前の一日になると思いました。そして、僕もなろうと思えます。誰かのための「おかげ様」に。

ありがとうの魔法

春日部市立葛飾中学校 二年 久保田 咲彩

ありがとう。今私は、皆さんにある魔法をかけました。心配しないで下さい。それは、「ありがとうの魔法」です。今までありがとうと言われるところを見たり、ありがとうと言われるりして嫌な気持ちになった人はいますか。いませんよね。むしろ自然と笑顔が溢れてしまうような幸せな気分になったはずです。このようにありがとうという言葉には、自然と幸せになる魔法がかけられています。

ですが、今は新型コロナウイルスにより、友人や、大切な人に会えないという状況が続いており、顔を見て直接ありがとうを言う機会が減ってきています。あんなにも当たり前だったことが今では、当たり前じゃなくなっていますよね。そんな今だからこそ、前よりもっとありがとうを大切にしたい、ありがとうを言うときには、感謝の気持ちが伝わるだけでなく、「ありがとうの魔法」を使うということが大切なのではないかと私は思うのです。

そして、あともう一つ直接ありがとうを言うことが難しいものがあります。それは、天国に旅立った人や動物に向けてです。

私の家には、私が生まれる前から飼っていたとても大切な愛犬がいました。私が生まれた時からずっと兄弟のように、過ごしてきました。が、先日、天国へと旅立ちました。その時、私や母はもっと何かしてあげられることがあったかもしれない、もしあの時に病院に連れて行っていれば。ご

めんね。と申し訳なく、残念に思っていました。ところが愛犬がお世話になっていた動物病院の先生は、こうおっしゃいました。「ごめんねと思わないで下さい。わんちゃんもごめんねよりありがとうと言われた方がうれいはずです。」と。そこで私は、もう一度ありがとうという言葉の大切さを身をもって感じる事ができました。そして、愛犬には直接ありがとうを伝える事はできなかったけれど、その分、これからは後悔しないようにありがとうをたくさん伝えていきたいなと思います。天国へ旅立ってしまった人や動物に、直接ありがとうを伝えることは、もう、できません。命があつて生きていて直接言うからこそ「ありがとうの魔法」なのです。

最後になりましたが、この話を聞いてくださったあなたにお願いがあります。ありがとうという魔法の言葉を一日一度は言ってほしいのです。大切な人や動物は、いついなくなってしまうかわからないし、今は新型コロナウイルスにより、世界中で多くの人が天国に旅立っています。今、こんな世の中だからこそ、小さなことでもありがとうを伝えるべきです。そして私は、この世界をありがとうで満ちている世界にしたいです。世界を変えたいということはとても難しいことかもしれません。ありがとうの大切さについて、もつともつとたくさんの人に伝えていきたいと思えます。どんなに小さなことにも、ありがとうを伝え、後悔をしないように生きていきたいと思えます。

青少年育成春日部市民会議のあゆみ

平成八年度

- ・春日部市青少年健全育成推進会議設立（七月二十七日）
- ・かすかべ郷土かるた大会を推進会議と教育委員会との共催で実施（十二月十五日）
- ・捨て看板等の違法広告物撤去作業スタート（十二月二十日／平成十七年度まで毎年実施）

平成九年度

- ・ふれあい広場での非行防止啓発活動スタート（十一月二日）
- ・冊子「たいせつな家庭」作成・配布（平成十六年度まで毎年作成・配布）

平成十一年度

- ・市内幼稚園・保育園・保育所の園長・所長を交えて「家庭教育座談会」を実施（九月二十二日／平成十六年度まで毎年実施）

平成十四年度

- ・春日部市青少年健全育成基本条例施行（四月一日）
- ・第十回かすかべ郷土かるた大会開催（十一月二十四日）

平成十六年度

- ・「青少年育成春日部市民会議」に名称を変更（四月一日）

平成十八年度

・第十四回かすかべ郷土かるた大会より、小学生の部、中学生の部に分けてトーナメント戦を実施（十一月十九日）

・青少年育成春日部市民会議設立十周年記念式典を開催（十二月十四日）

・青少年育成埼玉県民会議青少年育成功労賞受賞

平成二十一年度

・シラコバト賞受賞（十一月十四日）

平成二十二年度

・第十八回かすかべ郷土かるた大会より、一部改定した新かるたを使用（十一月十四日）

・青少年関係団体連携活動講演会を開催し、ノーベル化学賞受賞者 白川英樹筑波大学名誉教授を講師に迎えた（一月二十三日）

平成二十三年度

・第二十回記念かすかべ郷土かるた大会より、ファミリーの部を創設（十一月十一日）

平成二十五年度

・市民会議ロゴマークを制定

・環境浄化活動講演会を、会員及び一般市民を対象に開催し、講師として俳優 藤岡弘、氏を迎えた（十月二日）

平成二十六年 度

- ・家庭教育講演会を、会員及び一般市民を対象に開催し、講師として直木賞受賞作家 志茂田景樹氏を迎えた（二月十三日）

平成二十八年 度

- ・市民会議設立二十周年記念 青少年健全育成標語を募集

令和元 年度

- ・青少年健全育成講演会を、会員及び一般市民を対象に開催し、講師として元F C東京社長、東京ガスケミカル株式会社常務取締役 阿久根謙司氏を迎えた。（二月三十一日）

令和三年 一月発行

編集・発行

青少年育成春日部市民会議